

1 学校として目指す授業

個に応じた指導の徹底を図り、ICT機器の有効的な活用を通して、児童一人一人が「分かった。できた」という喜びが味わえる授業。

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語、算数ともに全国や都の平均正答数を上回っている。特に、国語の「読むこと」算数の「変化と関係」では8割近い正答率であった。しかし、国語、算数ともに問題形式の記述式では短答式に比較すると低くなっていることが分かった。文章で表現することが課題である。	肯定的回答が全国や都の平均を上回っていることが多い。「学校に行くのが楽しい。」や「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」と感じている児童が多く、クラスで友達同士が認め合い、協働できる場が作られていることが分かる。一方で先生に相談できないと感じている児童がいることが分かり、児童へ積極的な声掛けが必要だと考える。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

・「難しいと感じる問題でも、最後まで諦めずに取り組んでいる。」に対して肯定的回答が9割程度である。一方で間違えた問題に対して、どのように振り返ったらよいか分からない児童がいるため、復習の仕方を身に付けさせる必要がある。

・学習が「将来の仕事や生活に役に立つ」や「しっかり考えられるようになりたい。」などの項目への肯定的な回答が多く、学習に対して必然性をもって取り組んでいる児童が多い。

・学習に対して苦手意識をもっている児童がどの学年にも一定数いる。どの児童も学習が理解できるように工夫していく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

東京都統一体力テスト (6月実施 11月結果の返却)  
東京ベーシックドリル診断テスト (6月実施)

・投力、握力などに課題がある。体育の課題を出したり、授業の導入時に運動に取り組みせたりするなど、継続して運動に取り組む必要がある。

・全体として定着率は高いが、全学年で分からない内容をそのままにしていることがある。繰り返し類似問題に取り組みせ、取りこぼしがないようにしていく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・句読点やかぎを正しく使うなど、正しい文章の書き方ができていない児童がいる。
- ・間違えた問題の類似問題に取り組んだり自主的な反復練習をしたりといった学習方法が分かっていない。
- ・メモを取ったり線を引いたりしながら読むことをしておらず、工夫した学習を進めることを苦手としている。
- ・課題解決に向けた方法を自ら道筋を立てて考えていくことを苦手としており、課題解決の方法を身に付けさせる必要がある。
- ・写真や図などの資料の読み取り自分の考えをどのように表現してよいか分からない児童が多い。

4 学校全体の授業改善の視点

- ・習熟の程度や個に応じた指導を工夫し、より効果的な学習活動を展開する。
- ・ICTの有効活用。動画や写真などから問題提示を行い、興味をもたせながら児童の気付きを増やしていく。
- ・まなびポケットや東京ベーシックドリルを活用し、自ら調べたり反復練習したりさせ、自ら学ぼうとする姿勢、思考力・判断力・表現力を育てる。
- ・小グループでの問題解決型授業の充実を図り、探究的、協働的な学びを充実させる。

- 【授業改善推進プランの活用法】**
- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。
  - ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
  - ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
  - ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
  - ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
  - ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。  
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価			
低学年	・言葉集めをするなど、言葉に関する学習の機会を設定する。 ・挿絵と文章を対応させ内容を読み取るためにICTを活用する。				・立式の意味を正しく理解できるように、挿絵を使って場面について話し合わせたノートに図を描かせたりする。 ・ICT機器を使って意見を共有し、考えを深める場面を設定する。				・植物を観察する際には見る、触る、匂いを嗅ぐなどの観察の視点を提示する。 ・ICTを活用し、児童同士の意見交換や、自分の考えを深める場面を設定する。		・リズム遊びや、グループ活動を取り入れ、友達と一緒に音楽を楽しむ機会を設定する。 ・個別指導の時間を設け、技能の向上を図る。		・作品を鑑賞する時間を設定し、互いの作品の良さを認め合う時間を設定する。 ・思考を深めるために設計図を活用し、自分の思いや考えを広げられるようにする。				・領域ごとに感覚づくりの運動を帯で設定し、運動に必要な技能の向上を目指す。 ・友達同士で動きの確認をさせたり、児童がつくった場の共有をしたりして、遊び方や場の共有をする場面を設定する。					・授業の展開時には低学年の実態を踏まえて、体験的に深化させる動作化や役割演技を取り入れていく。 ・ICTを活用し、児童同士の意見交換を行い考えを広げる場面を設定する。			
中学年	・話し合う目的を明確にして学び合いの時間を確保し、文章を読み取る力を深める。 ・考えるまとめでは、資料やタブレットなど活用し多様な手段で表現できるようにする。		・ICTの活用や学校周辺の地図等具体物を積極的に取り入れ、学習問題を具体的に想起させる。 ・単元のまとめでは、資料やデータをもとに、ノート記述やタブレットなど、自己の力に応じた表現できるようにする。		・タブレットを活用し、個々のレベルに合った問題を解いたり、すきま時間の復習に活用したりする。 ・学んだことを文章でまとめることで、学習した言葉や大切な言葉などを意識させる。		・実験や観察を行う機会を十分に与え、理解を深められるようにする。自然の事物・現象の差異点を基に問題を見出す。また、主体的に問題解決しようとする力を育てる。				・リコーダーの常時活動を通して、基礎・基本的な技能を身に付けられるようにする。 ・友達と協力をして、グループ活動ができるような態度を育成する。		・基礎基本だけでなく自分なりに自由に発想、工夫する題材、時間を設定する。 ・鑑賞や交流場面を増やし、友達の良いところを認められるようにする。				・学習カードを活用して、児童一人一人が自身の課題や活動のポイントを意識できるようにする。 ・児童同士の伝え合いやICT機器の活用等を通して、課題解決を図れるようにする。					・道徳ノートやワークシートを毎時間活用し、自分の考えや学習の振り返りを書く時間を確保する。 ・タブレットを活用して、個々の考えをお互いに自由にしながら話し合いをする。			
高学年	・朝学習の時間などを利用し、語彙力や読解力などの国語力を高める。 ・グループでの話し合い活動を通して、自分の意見を順序立てて伝えたり、友達の考えを聞いたことで、思考力を深める。		・ICTやワークシートを活用しながら、資料から読み取ったことを整理させることで、自分の考えをまとめたり、深めたりできるようにする。		・デジタル教科書やICTを活用し、考えを表現したり共有したりしていく。 ・割合や速さの領域が苦手な児童が多くいるため、ベーシックドリルの練習問題を活用し、繰り返し指導していく。		・実験を行う際には予想を立て、立証するための方法を考え、実験を行うことで、思考力と知識を定着できるようにする。 ・実験の方法や理由を明確にして、自分の考えも含めて考察が書けるようにする。				・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解し、音楽表現を工夫しながら必要な技能を身に付けられるようにする。 ・主体的に音楽活動に取り組もうとする態度を養う。		・造形遊びや、抽象的な作品の良さを味わわせる。 ・友達の作品だけでなく、名画などを鑑賞する機会を作る。		・交流する場を設定し、児童が考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・日常生活を見つめ、具体的な課題を設定する。問題解決的な学習を行わせることで主体的に取り組めるようにする。			・ペア学習やトリオ学習を用いて、互いの技能や思考力を伸ばしていく。 ・ICTを活用し、自分の動きを確認させて、それを基に考えを伝え合う場面を設ける。				・自分の考えを伝え合い、自己を表現したり、互いのよさを認め合ったりする活動を多く行う。 ・児童が主体的に学習に取り組めるような学習課題を設定し、練習した英語表現を活用できる力を育てる。		・小グループで議論する時間を意図的に設け、多様な感じ方や考え方に出会い、自身の感じ方や考え方を深められるようにする。 ・ICTを活用して、考えを共有する。	